

# 令和3年度 教員免許状更新講習 シラバス

講習 番号	6	講習名	【選択⑥】国語科「言語文化」「古典探究」に活かす古典文学研究の成果(2)				
担当講師	開催地	時間数	主な受講対象者	受講人数	講習形式	試験方法	
柳川順子	インターネット	6時間	中学校・高等学校 国語科教諭	30人	同時双方向型講義 (ZOOM等)	筆記	
開催日	8月7日(土)		予備日	8月26日(木)			
<b>【到達目標】</b> 中国古典について、その根幹を体系的に把握した上で、日本文学との関係性を理解している。							
<b>【講習の概要】</b> ことばの持つ価値への認識を深め、言語文化に対する理解や関心を育てることに重きを置く新学習指導要領を踏まえて、古典文学研究の最新の成果を紹介しながら、「言語文化」「古典探究」領域の授業づくりに活用できる、日本の「古典知」の形成と展開について考える。『史記』『搜神記』『文選』『白氏文集』などの漢籍から、日本の「古典知」に組み入れられ、現代の「国語」のテキストにも多く採用されている作品を選んで、演習形式を交えつつ精読する。							
<b>【講習の内容】</b> <b>講義1：日本王朝文学と中国文学</b> 中国に由来する王朝人の美意識「やよいのつごもり」について、この語の淵源である白居易の詩の中から、「三月三十日、慈恩寺に題す」及び「元員外が三月三十日慈恩寺にて相憶ひて寄せられしに酬ゆ」を取り上げて、その摂取と文学的定着の過程をたどる。あわせて、『古今集』的歌風の成立に、平安朝前期の漢詩文と、それらに影響を与えた中国六朝期の文学が深く関与していることにも触れる。							
<b>講義2：中国知識人の教養的基盤</b> 中国歴代の詩人が強く意識した「毛詩大序」(『文選』巻四十五)と、これを踏まえて成った『古今和歌集』真名序及び仮名序との比較を通して、日本文学と中国文学との質的差異を考える。次いで、中国知識人の底に流れる儒教的発想と、彼らの知的基盤を成す様々な分野の書物を体系的に把握した上で、こうした教養を持つ人物を公僕として選抜する、科挙という制度の沿革と実際を概観する。							
<b>講義3：中国の伝統的小説観と志怪小説</b> 儒教的規範に基づく中国の伝統的小説観を確認した上で、中世の志怪小説集『搜神記』の中から、特に日本文学における摂取が認められるものを選んで味読する。あわせて、文言(書き言葉)と白話(話し言葉)との区分、及び両者の関係性を概観した上で、日本における物語文学の成立に、白話による唐代の絵解き物語(変文)が少なからず関与していると推定されていることにも言及する。							
<b>講義4：演劇としての『史記』刺客列伝</b> 日本でも盛んに読まれてきた司馬遷の『史記』は、その内に語り物や演劇といった文芸に由来する部分を多く含んでいると推定されている。このことがよくうかがえる刺客列伝から荆軻の故事を取り上げて、その文体や構成の中に演劇的要素を拾い上げながら味読する。更に、この歴史故事を墓壁面に描いた画像石や、五言詩に詠じた三国魏の作品にも触れながら、上記の推定の妥当性を検証する。							
*講習は、主に講義形式で進めるが、毎時間、質疑応答や受講者相互によるディスカッションの機会を設ける予定である。							
<b>【備考】</b> ・国語科「言語文化」「古典探究」に活かす古典文学研究の成果(1)と合わせて受講されると、理解がより一層深まります。 ・試験の際に、講義で配付した資料、ノート、電子辞書を含む辞書を持ち込んでもかまいません。							